

# 生活創造空間



～アンラシネを目指します～

第17号 2013年11月10日発行



## 第4回 第3地区福祉フェスタが

開催されました！

第4回 第3地区福祉フェスタ実行委員  
渡辺 まどか

今年も西区の第3地区にある9団体の福祉施設（①横浜市藤棚ケアプラザ②自然食品の店「菜月」③ゆめづくり三番館④みらい工房西⑤さらい工房⑥生活支援センター西⑦つむぎ⑧ガッツ・びーと西⑨エヌ・クラブ）が企画・運営した第3地区福祉フェスタが開催されました。昨年同様に百屋と第3地区懇談会も当日参加し、会場には焼きそば、野菜、パン、リサイクルバザー、スタンプラリーなど、バラエティに富んだ模擬店が軒を並べました。

今年のフェスタは横浜国大付属特別支援学校の和太鼓同好会の力強い和太鼓の演奏で幕開けとなりました。館内イベントではピアノ演奏グループ音のりぼんやおどるなつこさん&エヌ・クラブダンサーズ、朗読グループあすなろが出演し、模擬店に負けず劣らず多くのお客さんをそれぞれの演奏、ダンス、詩や物語の世界に引き込み、大好評となりました。

また今年には新しい2つのイベントを企画しました。

1つ目は映画上映です。精神障害の事業所にもなうドキュメント映画「ふるさとをください」を上映しました。

2つ目は西区のマスコットキャラクターである「にしまるちゃん」をはじめ、近隣区のゆるキャラの大集合です！西区（にしまるちゃん）、中区（スウィングー）、南区（みなっち）、神奈川区（かめ太郎）、鶴見区（ワックン）、星川地域ケアプラザ（ほっしいー）、横浜市水道局（はまピョン）の7体のゆるキャラが勢揃いし、オープニングや抽選会に登場したり、お客さんと一緒に写真を撮ったりと、2つの新しい試みもあり、今までの福祉フェスタとは違った盛り上がりを見せました。

当日はあいにくの雨天となりましたが、昨年を上回る来場者数となり、回数を重ねるごとに各福祉施設が、そしてこの第3地区福祉フェスタが地域に浸透していていることを実感しました。「福祉から地域へのはたらきかけ」として始まった第3地区福祉フェスタですが、これからも子どもや高齢者、障害者といった別々の捉え方ではなく、同じ地域に暮らし、同じ地域で働いている人としてお互いを認識し、関わられるような地域を目指していきたいと思っています。その一つの機会として、この第3地区福祉フェスタもこれまでのすばらしいつながりを保ちながら、新しい試みを考え、よりいっそう発展を目指していきたいと思っています。

来年度もどうぞよろしくお願いいたします！



1



# 平成25年度 生活創造空間にし 研修



## ～発達障害を学ぼう～



前号でご紹介した「生活創造空間にし研修」についての後編という事で、すでに終了した全5回の振り返りを行いたいと思います。

「発達障がいを学ぼう」と題して、5月から10月まで行われた連続講座は、下記の通り開催されました。

第1回目「発達障がい総論」 関水様（東やまた工房施設長）

第2回目「医療から見える発達障がい」 柏様（ハートクリニック横浜院長）

第3回目「教育から見える発達障がい」 冢田様（横浜市教育委員会主任指導主事）

第4回目「福祉から見える発達障がい」 浮貝様（PDDサポートセンターグリーンフォーレスト・サポートホーム事業 コーディネーター）

第5回目「事例検討会」 小野様（みのりの里施設長）

夕方の多忙な時間ではありましたが、全5回の研修に計277名の方、西区内外の福祉事業所職員の方や地域の民生委員の方や養護学校の先生など、様々な方にご参加いただきました。

（各会の開催前でのインフォメーションが足りず、参加を希望されていたにも関わらず、ご参加いただけなかった方には大変ご迷惑をお掛けしました。次年度以降での改善をしたいと思います。）

前号の広報にてご報告をさせていただいた第1・2回については省略させていただき、第3・4・5回目についての報告をいたします。

第3回目の「教育から見える発達障がい」については、横浜市の教育の動向から現状の学校での取り組みについて、教育現場の視点からお話をさせていただきました。

第4回目は、「福祉から見える発達障がい」では、現場事例をもとに、日々の継続支援や個別支援計画を作成するうえで、どのような視点を持つことが必要なのか、実際の支援の取り組み方法も交えながら、お話をさせていただきました。

最終回の第5回目は、前回までの研修を踏まえて、参加される方にもより具体的に考えていただけるよう個別支援会議（事例検討会）の形式とし、事例をもとに会議を進めました。アドバイザーとして、みのりの里施設長の小野様にもご参加いただき、「日々支援を行う上での課題等を共有し、現場に戻していく」形を取りました。研修内で、振り返りを行うこともでき、参加者にとっては有意義な研修を行うことができたと感じております。

今年度の「発達障がいについて」の研修は終了しましたが、次年度以降も今回のような研修を企画していきたいと思っております。

ご協力いただいた関係者の皆様には厚く御礼申し上げます。



ガッツビーと西 森 悠紀範  
エヌ・クラブ 安達 祐二

2013. 09. 06

## 西区地域自立支援協議会がさらにもう一步前に踏み出した日…

地域活動ホーム ガッツ・びーと西 田中 寿

2013. 09. 06 西区地域自立支援協議会 第二回シンポジウム 「つながる～大切にしている関わり方は何ですか～」が生活創造空間にし5階食堂において開催され、西区内外から69名の方が参加してくださいました。昨年度の第一回目において好評いただいた西区にゆかりのある論客によるシンポジウムと後半では↓↓↓で紹介させていただいている「西区スタイルカレッジ」の開校式をおこない、大いに盛り上がりました。

第二回シンポジウムの論客は、元西区地域自立支援協議会会長であり、現在は中山みどり園の熊井所長、中村特別支援学校 佐塚校長、パソコン工房 DELTA の館野所長、宮崎地域ケアプラザの地域交流コーディネーター谷川さんの4名にお願いしました。また、その4名の言葉を引き出す進行及びコーディネーター役は桜美林大学の大溝 茂専任教授に担っていただきました。登壇された皆さんの言葉一つ一つが参加された方の心に響いたことと思いますが、田中の独断と偏見でそれらの一部を抜粋してみたいと思います。

達人たちの渾身の一言

熊井さん：「障がい者が働くお店（喫茶）は自分にとって最初の職場であり、最も重要なことを教わった場所。人や地域と双方向のつながりがもてる場。」

佐塚さん：「学校は閉鎖的な世界。企業や施設に開き、子どもたちのことをもっと知ってもらいたい。大人は重心の子に対してどのように関わればいいのかと構えてしまうが、子どもたちは自然に関わっている。」

館野さん：「精神障がいの方たちは家族・友人などこれまでもっていた関係性やつながりを発症により断ち切られてしまっている。とみに人とのつながりを求めている方が多い。だからこそ、ごまかさない、取繕わない。」

谷川さん：「こちらが意図的に仕掛けるよりも、皆さんのやってみたい、参加したい、その気持ちを大事にした時の方が断然うまくいく。」

大溝さん：「私たちは簡単に“関わり方”と使ってしまうが、一番大切なのは“関わり方”ではなく、“関わられ方”。関わることで関わられる人が生まれる。関わられる人が何を求め、どう感じるか、そこを一番大切にしなければならぬ。」

継続は力なり。また来年もお楽しみに。

## 西区スタイルカレッジ・はじまる

「この半年間で福祉従事者として、あなたのハートを笑顔にしませんか？」を合言葉に始めました、西区スタイルカレッジ。この名称を聞いただけでは??という人も多いかと思えます。

西区スタイルカレッジとは、西区地域自立支援協議会が考案した西区内の色々な事業所スタッフが勤務後集まり、大学のゼミのように一緒に学び、一緒に成長できるブラッシュアップ・カリキュラムです。期間は半年間（平成25年9月～平成26年3月迄）。

今回の1期生は10事業所11名、新人からベテランまで様々な職種の方々が集まっています。

職員個々の感性を磨きあげ、共感力をアップすることにより、ゆくゆくは西区地域自立支援協議会と一緒に創っていく人材を育てていきます。日常業務から少し離れ、職員個々の「自分」を出し切れる貴重な場での講義は受講者一人一人のマインドアップにつながるでしょう。

施設、障がい種別、高齢・成人・子ども等世代を超えて、「生きづらさ」と向き合える、そして他人事ではなく自分のこととして考えられる人になってもらえたら、と考えています。

さあ、西区スタイルカレッジは開講しております！2期生・3期生と継続して行っていくことでみんなが学び合える協議会、素敵ですねえ…。 （にし うさ男）





# 「にぎわい&にしよこ寄席」

「エー、毎度ばかばかしいお笑いを一席」ということで恒例の「にぎわい&にしよこ寄席」が開演されました。

夏の盛りの昼下がり、木戸銭はワンコインの落語会。

昔昔亭桃之助師匠と桂夏丸師匠をお招きして演じていただきました。

5回目のご案内ということで、待ちに待って来場の方々もたくさんいらっしゃいました。

2時間の時をたっぷり使っていただき、お二人の師匠の熱演は、落語はもちろんのこと小噺などなど、表情、身振り、手振り、お話の呼吸はどれをとっても、お客様の笑い声を絶やすことなく素敵な芸を披露していただきました。

横浜にぎわい座さんとのコラボということで、にぎわい座の職員の方々は手弁当で、即席の席亭の高座はなんとテーブルを使い、幕はカーテンをしつらえての手作り感満載です。出囃子も担当してくださり、みごと(?)な席亭が出来上がりました。

夏丸さんは最後にご自慢の喉も披露してくださり、夏丸さん、仕事間違えたんじゃないかと思うほどの美声でした。とても落語を身近に感じられたのではないかと思います。

こんな笑いの渦が、いつも満ち溢れる「生活創造空間にし」、この街でありたいと願います。

おあとがよろしいようで、次回も乞うご期待。 (松之家 ふくかん)



腹黒日記～黒々なるままに～

☆いいともが終わる☆

♪お昼休みはウキウキウォッチ、あっちこっちそっちこちいいとも…。

永らく日本のお昼の定番として君臨した森田一義アワー笑っていいともが来春 32 年間の放送に終止符を打つことが決まった。

笑っていいともは不思議な番組だ。旬のお笑い芸人やアイドルを中心にキャスティングしているが別に見たい訳ではない。鶴瓶や関根勉などのベテランが見たい訳でもない。タモさんは唄わないし、確かテレフォンショッキングは「友達の友達は皆友達だ。」をやめ、翌日のゲストは番組が用意する形にいつからか変わってしまった。でも気がつくとお昼のチャンネルはいつも「8」だ。私たちは何気なく生きている。朝、無味な食パンを一枚食べ、意識しなくとも仕事に向かう東横線に乗っていて、気がつく横浜駅で雑踏をかき分けながら相鉄線のホームを目指している。それが「日常」なんだろう。生活創造空間にしロビーのお昼に「8」は誰ひとり異論のない「日常」だったがこれからは何に代わるのか。ヒルナンデスには荷が重い。(腹ぐるーる)

生活創造空間にし URL : <http://www.souzoukuukannishi.org>

【発行・印刷】生活 創造 空間 にし広報委員会 〒220-0055 横浜市西区浜松町 14-40

☎ 045-250-6506 (ガッツ・ビーと西) ☎ 045-250-6470 (エヌ・クラブ)